

真の教育とは

鶴岡から日本の教育改革を

「山形県、鶴岡市を世界的な学術文化都市に」。そんな目標を掲げる鶴岡市の慶應義塾大学先端生命科学研究所の富田勝所長が最近、日本の教育改革を熱く訴えている。少子高齢化や経済のグローバル化が進む中、日本の産業が競争力を失わず国として存続していくためには、従来の知識偏重の詰め込み教育から、主体的な学びの意欲と自由な発想を引き出す「真の教育」に切り替えなければならない。鶴岡からその教育改革を発信しようという内容だ。先に富田氏が鶴岡市内で行った講演の要旨を、5回にわたり紹介する。



**赤字国債発行で
いずれ破たんへ**
わたしは、高校生や大学生を対象に講演する時は、日本の危機的な財政状況を表すグラフの説明から始めます。平成22年度の国の予算は、税収が37兆円しかないのに、支出は92兆円です。

①

その赤字を埋めるために44兆円の国債を新たに発行し(つまり新たな借金、あとは主に埋蔵金、つまりへそくりを取り崩して帳尻を合わせています。37兆の収入のうち20兆円

ちは「たぶん、また大丈夫だ」と思っている。今回、東日本大震災の復旧に必要な18兆円の財源をどうするかで政局になっていますが、一方で950兆円もた

は一定の理があります。例えば橋を造れば、60年くらいは使えるから、60年後の人々も恩恵を受ける。従って60年口で買うことは正当化できます。

一方「赤字国債」は、今の世代の生活を支えるために国債を発行するものであり、これは「禁じ手」です。実際に法律(財政法)で禁

するの。無駄を削る。と言っても、あれだけ仕事仕分けをしても捻出できたのは1〜2兆円程度です。消費税を10%に上げたとしても増える税収は1兆5000億円にすぎず、根本的な解決にはなりません。

学生は絶対に逃げ切れない、というのです。だから「君らは絶対に逃げ切れない。破たん後の日本を立て直すのは君らだ」とハッパをかけています。

提言

富田 勝氏(慶應義塾大学先端生命科学研究所所長) 講演から

生き残る道は「知的産業」

は借金の返済で消えていきます。収入が37兆円しかないのに支出は92兆円。これは小学生が考えてもおかしと分かるのに、そんなことを何年も続けています。つまりにたまった累積の借金の総額は、国と地方を合わせて950兆円です。にもかかわらずなぜか日本人は意外に冷静で、多くの大人た

高度経済成長期はずっと、税収も支出も右肩上がりでした。ところが、90年にバブルが崩壊して以降、税収はずっと下がっているのに、支出はその後同じ勢いで伸び続けています。そしてそのギャップを国債という借金をして賄っているのです。国債とはいわば60年ローンです。国債には2種類あり「建設国債」に

止まっています。孫のクレジットカードを勝手に使うようなもので、つまり逃げ切れるといふことです。今の政治家の多くは逃げ切り世代なので、場当たり的な対処でなるべく破たんを先送りして延命しようとしています。私の年代が逃げ切れるかどうかは微妙なところですが、確実に言えることは、今の高校生、大

「ある年齢以上の年配者は、破たん前に人生を全うできる」、つまり逃げ切れるといふことです。今の政治家の多くは逃げ切り世代なので、場当たり的な対処でなるべく破たんを先送りして延命しようとしています。私の年代が逃げ切れるかどうかは微妙なところですが、確実に言えることは、今の高校生、大

学生は絶対に逃げ切れない、というのです。だから「君らは絶対に逃げ切れない。破たん後の日本を立て直すのは君らだ」とハッパをかけています。

知的産業がこれからの日本が生きる道なのです。独創的なアイデアで高付加価値のモノやサービスを提供して、海外と勝負してビジネスをしていかなければいけない。なのに多くの若者は自己保身と安定志向になって、社会のために勝負をする気概のある人材が数少なくなっています。わたしはその原因は、戦後長く続してきた日本の教育システムにあると考えています。

は借金返済で消えていきます。収入が37兆円しかないのに支出は92兆円。これは小学生が考えてもおかしと分かるのに、そんなことを何年も続けています。つまりにたまった累積の借金の総額は、国と地方を合わせて950兆円です。にもかかわらずなぜか日本人は意外に冷静で、多くの大人た

高度経済成長期はずっと、税収も支出も右肩上がりでした。ところが、90年にバブルが崩壊して以降、税収はずっと下がっているのに、支出はその後同じ勢いで伸び続けています。そしてそのギャップを国債という借金をして賄っているのです。国債とはいわば60年ローンです。国債には2種類あり「建設国債」に

止まっています。孫のクレジットカードを勝手に使うようなもので、つまり逃げ切れるといふことです。今の政治家の多くは逃げ切り世代なので、場当たり的な対処でなるべく破たんを先送りして延命しようとしています。私の年代が逃げ切れるかどうかは微妙なところですが、確実に言えることは、今の高校生、大

ある年齢以上の年配者は、破たん前に人生を全うできる」、つまり逃げ切れるといふことです。今の政治家の多くは逃げ切り世代なので、場当たり的な対処でなるべく破たんを先送りして延命しようとしています。私の年代が逃げ切れるかどうかは微妙なところですが、確実に言えることは、今の高校生、大

学生は絶対に逃げ切れない、というのです。だから「君らは絶対に逃げ切れない。破たん後の日本を立て直すのは君らだ」とハッパをかけています。

知的産業がこれからの日本が生きる道なのです。独創的なアイデアで高付加価値のモノやサービスを提供して、海外と勝負してビジネスをしていかなければいけない。なのに多くの若者は自己保身と安定志向になって、社会のために勝負をする気概のある人材が数少なくなっています。わたしはその原因は、戦後長く続してきた日本の教育システムにあると考えています。

本稿は、9月9日に鶴岡市のクランドエル・サンで行われた鶴岡地区産業安全衛生大会の富田勝氏の記念講演『生命科学の現状、研究と実社会とのかわり』、鶴岡での研究内容とその成果について』の論旨に、富田氏本人が加筆したものです。